

# 北海道のサイクルツーリズム推進に向けた取り組み

株式会社ドーコン 交通事業本部交通部 正会員 ○中山 拓弥

## 1. はじめに

北海道開発局では、平成28年3月に閣議決定された第8期北海道総合開発計画において、「世界水準の観光地」を目指しており、サイクルツーリズム等の振興等により、広域的観光周遊ルート形成を促進することとされている。

また、平成29年5月に自転車活用推進法が施行され、サイクルツーリズムを取り巻く機運が高まっている。

そこで、北海道におけるサイクルツーリズムを推進するために、自転車の「受入環境」、「走行環境」、「情報提供・サイクリストとのコミュニケーションの方策」、「持続的取組を進めるための体制・役割分担」について、先進地域の取組等も踏まえつつ、専門の見地から審議を行うため、北海道開発局ならびに北海道は、「北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会（以下、検討委員会）」を設立し、モデルルートを設定後、施策や取組の試行を平成29年～平成30年の2ヶ年にわたって実施することとした。㈱ドーコンは、平成29年度において検討委員会の事務局運営補助の役割を担っており、「世界水準のサイクリング環境」の構築に向けて、試行1年目（平成29年7月開始）の中間とりまとめと北海道における持続的なサイクリング環境構築に向けた制度設計の方向性についての検討を提案する立場から報告する。

## 2. モデルルートにおける試行

### (1)モデルルート設定の考え方

検討委員会での審議結果を踏まえ、試行的にサイクルツーリズム推進体制についての検討を行う5つのモデルルートを設定した。サイクリングルートは、各ルートの骨格となる「基幹ルート」と地域の短距離のサイクリングルートである「地域ルート」に分けて考えた（図-1）。

基幹ルートは、世界のサイクリストが安全かつ安心してサイクリングできる走行・受入環境が整っているルート（世界標準）を目指し、市町村をまたぐ骨格となるルートとした。また、地域ルートは、北海道の優位性を活かしたここでしか味わえない体験が可能なルート（世界最高水準）を目指し、基幹ルートから離れた地域資源を楽しめる短距離のルートとした。このうち今回設定した5つのモデルルートは、基幹ルートとして試行する。

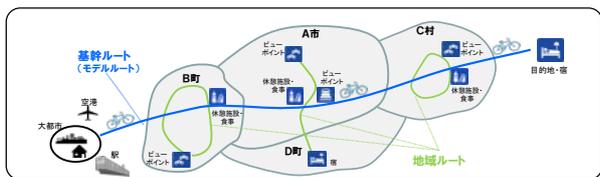


図-1 モデルルート設定の考え方

### (2)モデルルートの位置

選定された5つのモデルルートについて、詳細は以下の通りである（図-2）。



図-2 5つのモデルルートの位置

## 3. 平成29年度の試行について

### (1)受入環境の充実

地域との連携により、道の駅や観光施設等の立寄施設にサイクルラックや空気入れ等を設置した（図-3）。

また、周遊エリアの拡大やトラブル時の移動をサポートすることを目的とし、輸送サービス（路線バスの活用）、荷物輸送サービス（運送業者との連携）など、移動サポートの充実を図る取り組みを実施した（図-4）。

その他、ルートの詳細案内・周知等を目的とし、モデルルート周辺の休憩施設や景観スポット、注意箇所、自転車走行ルール等を掲載したサイクリングマップを作成した。また、サイクリストに広くルートの魅力を周知するとともに、サイクリスト目線でのルート環境整備の確認を目的とし、サイクリングイベントを実施した。さらに、外国人サイクリストへ、北海道でのサイクリングの魅力を周知することを目的とし、モニターツアーを実施した。



図-3 道の駅等での受入環境改善状況

キーワード サイクルツーリズム, 世界水準, 観光・景観, 安全・安心

連絡先〒004-8585 北海道札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4番1号 (株)ドーコン 交通部 TEL011-801-1520



図4左図：輪行サービス状況（路線バスの活用），  
右図：荷物輸送サービス状況（運送業者との連携）



図7 コミュニケーションサイトの画面

(2)自転車走行環境の改善

a)案内看板シール設置（貼付）

サイクリストが迷わず安心して走行できるようにするため、モデルルート起点から終点方向に、右左折で分岐する交差点にある道路付属物（道路標識、道路照明、固定式視線誘導等）の支柱にルート案内シールを設置（貼付）した。案内看板シールの構成は、最小限必要な進行方向、ピクトグラム、ルート番号とし、色彩は路面表示（矢羽根）と同色を採用した（図-5）。



図-5 案内看板シールと設置状況（国道38号浦幌町）

b)路面表示（矢羽根）設置

路面表示（矢羽根）は、車道における自転車通行位置を自転車利用者とドライバーの双方に示し、「安全」な道路交通環境を確保するため、モデルルート上の国道×道道以上の交差点に15箇所、国道の急カーブの手前に29箇所に設置した（図-6）。



図-6 路面表示（矢羽根）と設置状況（国道238号稚内市）

(3)情報提供・サイクリストとのコミュニケーション方策

モデルルートの地図や位置情報、ビューポイントや休憩施設などのスポット情報を提供するため、コミュニケーションサイトを開設した。本サイトを活用し、利用者からの5段階評価及び口コミ投稿からの意見を取り入れ、受入環境の充実や走行環境の改善にフィードバックができる内容とした（図-7）。

(4)持続的取組を進めるための体制・役割分担

自治体・観光協会・宿泊施設・サイクリング協会・交通事業者・有識者等の様々な関係者と連携した持続可能な仕組み・組織作り及び管内のサイクリングに関する取組事例の共有を目的に、様々な関係者との勉強会を実施した。今後は、課題を共有するとともに、課題解決に向けた意見交換を行う予定である。また、本試行による経済波及効果や、サイクリング観光客数を試算することを目的に、北海道が実施した「平成28年度 観光客動態・満足度調査（以下、H28北海道調査）」からサイクリング目的の観光客を対象とした分析を行った（表-1）。加えて、H28北海道調査を参考としつつ、サイクルイベント参加者の動向等を調査した（表-2）。今後は、モニタリング調査を行い、効果を継続的に把握し、北海道のサイクリング環境の改善に反映するとともに、地域の理解を得ていく必要がある。

表-1 H28北海道調査による検討内容

調査・把握項目		
旅行目的が「サイクリング」である観光客	属性情報	サイクリストの居住地、性別、年齢
	旅行形態	旅行の申し込み方法（ツアー/個人）、旅行の同行者形態（一人、夫婦、家族）
	旅程	北海道での旅行日程（○泊○日）、旅程、レンタサイクル/自転車
	各種消費額	サイクリストの消費額（交通費、宿泊費、飲食費、買物・お土産代、その他）

表-2 サイクルイベントwebアンケート調査による検討内容

調査・把握項目	
属性情報	サイクリストの居住地、性別、年齢
消費額	サイクリストの消費額（交通費、宿泊費、飲食費、買物・お土産代、その他）

4. 平成30年度以降に向けて

今後は、平成29年度の試行内容である、受入環境の充実、自転車走行環境の改善、情報提供・サイクリストとのコミュニケーション方策、持続的取組を進めるための体制・役割分担について、利用者、行政（道路管理者等）、地域といった各々の視点で検証予定である。

これらの検証結果を踏まえ、平成30年度の試行の方向性を打ち出すとともに、「世界水準のサイクリング環境」の構築に必要な事項についても整理する予定である。

最後に、本取り組みに多大なる協力をいただいている検討委員会の関係者の皆様方に、感謝の意を表する。